

# あらた同窓會

平成29年 秋季号

平成29年11月23日発行

鹿児島大学農学部  
あらた同窓会  
学生会員向け会報

電話 099-285-8537



上荒田の杜公園から見た農学部





イネの収穫



トルコギキョウ 収穫実習



## 目 次

|                                     |                                  |    |
|-------------------------------------|----------------------------------|----|
| 九州の住・産環境と農水産学研究科の改組                 | 岩井 久                             | 2  |
| 学生向け講演会 「海外で経験し、学ぼう」－高等農林学校建学の精神から－ | 富永 茂人                            | 3  |
| 鹿児島大学生が応募可能な留学制度                    | 畝田谷桂子                            | 4  |
| <b>ビバ・キャンパスライフ</b>                  |                                  |    |
| ●生物生産学科                             |                                  |    |
| 作物生産学講座                             |                                  |    |
| 「学生生活を振り返って」                        | 比較環境農学研究室 学部4年・西 修平              | 5  |
| 園芸生産学講座                             |                                  |    |
| 「大学生活を振り返って」                        | 観賞園芸学研究室 学部4年・針原 彩乃              | 5  |
| 病害虫制御学講座                            |                                  |    |
| 「大学生活を振り返って」                        | 植物病理学研究室 学部4年・津田 尚明              | 6  |
| 家畜生産学講座                             |                                  |    |
| 「大学入学から3年過ぎて」                       | 家畜管理学研究室 学部3年・石垣 水琴              | 6  |
| 農業経営経済学講座                           |                                  |    |
| 「大学生活を振り返って」                        | 農業市場学研究室 学部4年・沖村 耕造              | 7  |
| ●生物資源化学科                            |                                  |    |
| 生命機能化学講座                            |                                  |    |
| 「大学での四年間」                           | 生分子機能学研究室 学部4年・田村 諒介             | 7  |
| 食品機能化学講座                            |                                  |    |
| 「アルバイトから得たこと」                       | 食品化学研究室 学部4年・山田 大喜               | 8  |
| 食糧生産化学講座                            |                                  |    |
| 「きっかけと変化」                           | 植物栄養・肥料学研究室 学部4年・中島 晶乃           | 8  |
| 焼酎学講座                               |                                  |    |
| 「焼酎学講座での2年間」                        | 醸造微生物学研究室 学部4年・中村 恵理             | 9  |
| ●生物環境学科                             |                                  |    |
| 森林科学講座                              |                                  |    |
| 「4年間を振り返って」                         | 森林保護学研究室 学部4年・早瀬 愛奈              | 9  |
| 環境システム学講座                           |                                  |    |
| 「大学生活を振り返って」                        | 環境情報システム学研究室 学部4年・財津 燎           | 10 |
| 生産環境工学講座                            |                                  |    |
| 「大学生活を振り返って」                        | 利水工学研究室 学部4年・藤平 優佑               | 10 |
| <b>教育実習奮闘記</b>                      |                                  |    |
| 「教育実習を振り返って」                        | 生物生産学科 植物育種学研究室 学部4年・畠中 京介       | 11 |
| 「教育実習を通して」                          | 生物資源化学科 焼酎製造学研究室 学部4年・杉町 美奈      | 11 |
| 「教育実習を終えて」                          | 生物環境学科 農業環境システム学研究室 学部4年・山田あかり   | 12 |
| <b>インターシップ体験記</b>                   |                                  |    |
| 「インターンシップを終えて」                      | 生物生産学科 果樹園芸学研究室 学部3年・瀬戸大一郎       | 12 |
| 「インターンシップを終えて」                      | 生物資源化学科 栄養生化学・飼料化学研究室 学部3年・作田あゆみ | 13 |
| 「学外研修を通して、将来の目標を明確に！」               | 生物環境学科・利水工学研究室 学部3年・石本 華子        | 13 |
| <b>介護体験記</b>                        |                                  |    |
| 「介護実習を終えて」                          | 生物環境学科 食料環境システム学研究室 学部4年・井口 智貴   | 14 |
| <b>留学報告</b>                         |                                  |    |
| 「行ってみないと感じられない」                     | 生物生産学専攻 熱帯作物学研究室 修士2年・山邊菜穂子      | 14 |
| 「留学を通しての学び」                         | 生物資源化学専攻 土壌科学研究室 修士2年・松野 美里      | 15 |
| <b>編集後記</b>                         |                                  | 16 |



## 九州の住・産環境と農水産学研究科の改組

岩井 久（農学部長）

毎回のことですが、この巻頭言を執筆する際には、1年前の秋季号にどのようなことを書いたか読み返します。昨年は先ず桜島が異常に静かなことを述べました。その一方で熊本・大分の地震、阿蘇山の噴火、そして台風16号の鹿児島横断による高隈演習林の被害などを記しています。自然災害が日本列島を波状的に襲っており、油断できないことを申し上げました。講義でも良く話すところですが、そもそも、私達が住む日本という国は、温帯モンスーンという高湿潤な世界中でも特異な気候帯に位置する上に、4つのプレートがぶつかり合って形成される極めて不安定な列島からなっています（プラス面としてはプレートのせめぎ合いで富士山という単峰が生まれた！）。この、住環境や農業をはじめとする産業活動の場としては、かなり困難な地に、1億人の国家が形成されてきたというのは奇跡に近い事実です。増してや、アジア有数の活火山島から僅か4kmの場所に60万都市を形成している我々鹿児島市民は、ある意味、世界で最も勇敢な市民ではないでしょうか？（加えて近くには日本最大の石油備蓄基地や原発まで揃っています・・・）。

本年度は北部九州での大水害で幕を開けました。そしてつい先日（10月11日）に、鹿児島と宮崎の県境の新燃岳が、6年振りに噴火し、活動を再開しました。市内からですと、桜島と竜ヶ水の間の錦江湾の彼方、高千穂峰と韓国岳の間の雲間に噴煙が上がるのが観えてとても奇妙でした（今は少し静まっています）。噴火直後は風向きの関係で、宮崎県高原町の収穫直前のイネが降灰に見舞われ農家の方は大変でした。昨年も書きましたが、九州は、風光明媚な観光地や温泉地に恵まれてはいますが、九重・阿蘇・雲仙・霧島や南西諸島の火山群の活動、あるいは日本近海の海水温上昇による超大型台風の常態化などを克服するために、農林水産業・防災・観光の三態を横断した研究や人材養成をさらに強化しないといけません。

自然災害が身近な鹿児島県にあって、我が鹿児島大学は、この周囲の環境を、耐久型・持続型農林水産業の実践教育の場として活用しつつ、周辺県や市町村とも協力しながら、九州を日本の一大農林水産物供給基地に位置づけるべく奮闘しています。農学部で2年前に開始し、一部の学生・院生も関与している、鹿児島大学地域連携プロジェクトもその一環です。

さらに機能強化を目指して検討しているのは、現在ある修士課程の、農学研究科（3専攻）と水産学研究科（5分野）を統合した（仮称）農林水産学研究科の新設です。今のところは、あくまで仮称ですが、4専攻（農林資源科学専攻、食品創成科学専攻、地域フィールド科学専攻、地域水産科学専攻）からの構成を考えており、平成31年春からの開始を目標に、今多くの先生に入試方法や履修科目の検討をお願いしているところです。この改組に関しては、在学生の皆さんのお考えも伺いたく、近々アンケートを実施しようと考えておりますので、ご協力をお願いします。

目指すところは「森から海までを俯瞰視でき農林水産物の流通についての知識も持った応用力のある人材」の養成です。

## 学生向け講演会（平成 29 年 7 月 27 日開催）

## 「海外で経験し、学ぼう」－高等農林学校建学の精神から－

農学部との共催で行っている平成 29 年度「学生向け講演会」は、昨年と同一の「海外留学」をテーマにして行うことにした。今年度は「海外留学に対する心構えと準備」をテーマにして行った。まず、昨年もお話をいただいたグローバルセンターの畝田谷先生に、「海外留学に応募するまでに考えておきたいこと」についてお話いただき、次いで実際に海外留学に応募し留学する（した）二人の経験者に「留学先を選択するに至った経緯や実際の応募」について紹介して貰い、最後に実際に海外留学を目指す学生を指導してこられた共同獣医学部の三浦先生に、留学生を受け入れる海外の大学からの声についてお話をしていただいた。出席者は教職員・学生合計で約 50 名であった。以下は、講演会の概要です。

## 1. 畝田谷 桂子先生 グローバルセンター・学生海外派遣部門・部門長・教授／学長補佐)

「海外留学に出かけるまで一心構えと準備」というタイトルで、鹿児島大学生が応募可能な留学制度のいくつかをあげていただきながら、「留学までの流れ」、「利用可能な海外留学制度」、「応募できるタイミング」に始まり、留学を希望する場合の「全てに優先する大目標」は①自力で留学にこぎ着けること、②無事帰国すること、であることを強調された。そして、学生に対して「心が動いたらやってみよう（できたかもしれないのに、しないで思い残すのは一生の心残り）」、「自分のために時間を裁量できる学生時代こそ、海外体験で視座を高めるチャンスであり」、「留学によってこれからの人生のとらえ方が変わります」とエールを送っていただいた。（次ページに「鹿児島大学生が応募可能な留学制度」のご寄稿があります）。

## 2. 大西 弘也さん（大学院・生物生産学専攻 1 年）

「トビタテ Japan」に応募・合格して後期からオーストラリアのマードック大学（パース市）に留学することが決まっている。留学することを決めたのはタイ等の海外での体験がもとになっていること。留学先をマードック大学に志望したのは卒論や修論で取り組んでいるパッションフルーツに関する研究がおおきなきっかけであり、指導教員の大きなサポートを受けたことなどをもとに、留学前に準備したこと、面接についての報告があった。

## 3. 松野 美里さん（大学院・生物資源化学専攻 2 年）

「トビタテ Japan」でスロベキア農業大学に 6 ヶ月間留学した。応募のきっかけは、海外留学農業体験講座で中国を訪問したことであること、「トビタテ Japan」では多種多様な留学計画が立てられること、採択前の留学計画書の作成やプレゼン発表、採択後の事前・事後研修が自分を見つめ直すきっかけになったことなどの報告があった。留学中の経験は本会報の「留学体験記」に詳細に紹介していただいた。



写真 左から大西君、松野さん、三浦先生

## 4. 三浦 直樹先生（共同獣医学部・獣医学科）

「専門課程の学生留学－海外の担当者からの声」というタイトルでこれまで留学希望者を指導して海外留学に送り出した経験を、ご自分の留学時の経験も踏まえて話していただいた。海外留学は人生において大きな経験と自信につながることで、留学のためには心構えを含めて十分な準備が必要なこと、そのためには留学希望先の情報を十分仕入れて望むことを強調された。

（文責：農学部あらた同窓会 富永 茂人）



## 鹿児島大学生が応募可能な留学制度

グローバルセンター 学生海外派遣部門  
部門長・学長補佐  
畝田谷 桂子

「留学」について、皆さんはどのような印象をお持ちでしょうか。帰国生は、「多様性をリアルに感じる」「日本はバラエティの1部。日本のスケールで終わっていた思考が、世界のスケールになった」「無意識に日本的な価値観に囚われていた視野が大きく広がった」など、まさに生き方やものの見方が一変する体験をしています。以下に、主に「大学を通じて応募する留学制度」（一定の条件を満たせば返済不要の給付型奨学金が得られる）についてご紹介しますので、活用してください。

### (1) 学術交流協定校への派遣留学制度（派遣留学説明会 11/16（木）17:50— 学習交流プラザ学習ホール）

「学生交流の覚書」を締結している学術交流協定校への交換留学（学内選考後、派遣先大学の条件を満たす必要有。派遣先授業料不徴収、鹿大授業料を納付）。H28年度現在、全学生が留学可能な大学71校（全学間協定）、協定該当学部のみ留学可能な大学29校（部局間協定）。鹿大「学生海外留学支援事業」支援金給付。この他、日本学生支援機構の給付型奨学金も可能性有。留学期間：1学期～1年、募集：年1回8月

### (2) トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム <http://www.tobitate.mext.go.jp/index.html>

（トビタテ説明会 11/30（木）17:50— 学習交流プラザ学習ホール）

世界で活躍できる人材育成を目的として、文部科学省が支援企業等の寄附により提供する給付型奨学金。自分で組立てた留学計画（大学機関等での座学だけでなく、実地活動（インターンシップ・ボランティア等）を含む）を大学を通して申込む。第7期までに、33名の鹿大生（うち農・獣医学部11名）がトビタット。留学期間：28日以上2年以内（3ヶ月以上推奨）、募集：年2回1、9月

### (3) 鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣）（派遣留学説明会にて情報収集可能）

[http://www.8360uf.sakura.ne.jp/shinshu/abroad\\_dispatch/long\\_term/](http://www.8360uf.sakura.ne.jp/shinshu/abroad_dispatch/long_term/)

鹿児島地域への貢献、活性化に繋がるテーマを持つ海外活動（実地体験も含む）及び地域活性化に寄与する帰国後の活動を含めた留学を支援。留学期間：10週間以上1年未満、募集：年2回、2月と6月

### (4) 鹿児島県清華大学留学支援奨学金（派遣留学説明会にて情報収集可能）

清華大学人文学院対外漢語教学センターで中国語を学ぶ鹿児島県奨学金。大学から応募。習近平国家主席等の政財界要人を多数輩出し、風光明媚な北京の西北に位置する中国トップの総合大学で、世界中から集まる優秀な学生と切磋琢磨して学べる。鹿大「学生海外留学支援事業」支援金も給付。留学期間：約5ヶ月間・9月～1月末、募集：年1回、4月

### (5) 海外留学支援制度（大学院学位取得型） [http://www.jasso.go.jp/ryugaku/tantosha/study\\_a/long\\_term\\_h/](http://www.jasso.go.jp/ryugaku/tantosha/study_a/long_term_h/)

修士又は博士の学位取得を目指し、海外の大学に留学する学生等を対象とした奨学金。原則として、在籍大学又は卒業大学を通して応募。

### (6) 留学奨学金検索 <http://www.tobitate.mext.go.jp/guide/scholarship/index.html>

心が動いたら、このサイトを使ってまず自分で動いて情報収集してください。その取組そのものが、必ず個人の成長に繋がります。これから地域や日本を担う農学部の皆さんが、一人でも多く支援制度を有効活用して海外体験をし、新たな視野と行動力を得て活躍することを願っています。



をつけて生きていきたいと思う。



## 生物生産科学科

### 作物生産学講座



#### 「大学生活を振り返って」

比較環境農学研究室

学部 4 年 西 修平

鹿児島大学に入学して約3年と半年が経ち、長かったような短かったような学生生活も残りわずかとなった。振り返ると多くのことを経験し、学び、そしてたくさんの人との出会いがあった。その中でも、大学1年から続けているアルバイトはとても良い経験となった。働くということ、お金を稼ぐことの大変さを学んだ。失敗もたくさんしたが普通ではさせてもらえないような仕事にもチャレンジさせてくれた環境もあり、とても成長できた。

話は変わるが研究室のことを書きたいと思う。学部改組に伴って、新しくできた作物生産学講座の比較環境農学研究室に所属している。この研究室の志水勝好先生のご指導の下、卒業研究を進めている。この研究室に属して本当に良かったと思っている。本当にたくさんの繋がりができた。卒研を進める上で先生だけでなく技官さんやいろんな方にお世話になっている。本当に人に恵まれた環境で研究を進められていることに感謝している。この研究室は作物学研究室のラボに間借りしている。このことが最後の学生生活を楽しんでいる。昼食は毎日、先生と学生全員でとるのはもちろん、県外にボランティアに行ったり、釣りに行ったりと研究だけでなく遊びも充実している。

充実した学生生活を送れたのも両親をはじめ、先生、友人と周囲の人たちのおかげなので感謝したいと思う。残り半年を有意義に過ごすためにも目の前にあることを一生懸命に頑張りたいと思う。あまり実感はないが、来年4月からは働き始めるということを考えると楽しみでもあるが少し寂しい感じもある。これから先、苦しいこと楽しいこといろいろなことが待っていると思うが、学生生活で学んだことを忘れず地に足

### 園芸生産学講座

#### 「大学生活を振り返って」



観賞園芸学研究室

学部 4 年 針原 彩乃

大学に入学してからの3年半を振り返ると本当にあっという間でした。大学では、サークルやアルバイトなどのはじめての経験を通して多くの出会いがあり、とても充実した生活を送ることができたと思います。

私は音楽が好きなので軽音サークルに所属しました。軽音サークルは他の軽音サークルと合同でイベントを行うことが多くそこでの繋がりもありました。様々な行事を通してサークルのメンバーとは上手いかないこともあったり、練習が立て込んで嫌になったりしましたがサークル活動は私の大学生活をより華やかにしただけでなく高校生の頃部活をしていなかった私にとってはサークルを引退するまでしっかりやりきったという満足感や達成感を得ることが出来る場所になったと思います。

また、私は、農学部の講義と同時に教職の講義も受けています。1、2年次は時間割が詰まって試験やレポートに追われることもありましたが、しかし、大変な分学ぶことも多く、教育実習では母校に戻り、塾講師のアルバイトで学んだことを活かしつつ教壇に立ち授業をしたり HR で話をしたりしました。先生という立場から慣れ親しんだ高校に通うのは、授業の流れや先生たちがどれだけ生徒のことを考えているのかなど違った視点から発見できることがたくさんあり良い経験ができたと思います。

大学生活もあと半年となりました。私は4月からは大学院への進学が決まり、入学前から興味があった花の育種の研究を行っている観賞園芸学研究室で現在卒業論文行なっている実験を継続して行く予定です。この3年半で得た経験や学びをあと2年半の学生生活でさらに深め自分の目標に向かって精一杯励みたいと思います。

## 病虫害制御学講座



### 「大学生活を振り返って」

植物病理学研究室

学部4年 津田 尚明

「私たちは無事です。」着信と共に実家から連絡があった。2016年4月16日、この日は忘れられない日となった。

私の実家は熊本県の益城町である。当時私は大学3年生でまさに就活の準備とアルバイト生活の最中であり、実家にはあまり帰省できていない時期でもあった。アルバイトをしていると強めの地震、続いて携帯が鳴った。私は状況を把握しようと、すぐに家族への連絡を試みたが、連絡はつかなかった。しばらくして単身赴任の母と連絡がつき熊本にいる祖母、父、姉の三人は無事だと分かった。熊本に入れるようになり片づけに行くと、慣れ親しんだ家や周囲の状況の悲惨さに強い衝撃を受けた。その衝撃から故郷に出来ること、自分に出来るものを探し、おのずと就職も決まった。

私が鹿児島大学農学部へ進学した理由は、生物の勉強をしたいという気持ちと自立したいという気持ちからだった。大学生活初日、学科で友人をつくれるだろうかと一人苦悶していた自分に話しかけてくれた人がいる。この人は誰とでもすぐに仲良くなれる才能の持ち主であった。彼の能力を見様見真似して友人関係を広げていった私には多くの友達ができ、彼が親友となっていたのは言うまでもない。私は一人暮らしの中で様々な初めての体験をし、友人に救われながらも乗り切ってきた。その経験は仲間の重要さと共に家族の大切さを実感できるものであった。自立心も少しは育ったように思う。

現在、私は植物病理学研究室に所属し、ジャガイモに感染するそうか病菌に抗菌作用を示すタンパク質の作用機作について研究している。この研究によってさらなる農業発展の一助となることを期待しながら日々格闘している。また、現在学んでいる知識や技術を活かし、将来熊本のために貢献できたらと思っている。

卒業まであとわずかであるが、自身の研鑽と共に研究室やサークルの仲間とより良い思い出をさらに作ってきたい。

## 家畜生産学講座



### 「大学入学から3年過ぎて」

家畜管理学研究室

学部3年 石垣 水琴

広島県の農業高校からはるばる鹿児島島にやってきました。初めての土地、大学生活、一人暮らし、バイト、サークル、何もかもが初めてで最初は不安しかないくらい緊張していました。お米も炊いたことのなかった私は炊飯器いっぱいのおかゆを炊きました。そんな私が今では、もつ鍋屋のキッチンでバイトをしています。先輩、友達に支えられ気付けばあっという間に2年と半年が過ぎてしまいました。

1・2年の間は、基礎学力をつける講義などの座学ばかりで、農業高校で頭より体を動かして学習してきた私にとっては少し苦痛に感じてしまいました。サークルでできた新しい友達と夜遅くまで遊んでしまっただけで次の日の授業に集中できない、授業自体行けないという時もありました。

しかし3年になり、研究室に配属されてからは今までの生活とは全く違う生活を送っています。朝早くから学校に行きヤギ、牛、合鴨など研究室で飼養管理を行っている家畜の体調をチェックし、餌を与えます。家畜の命を預かっている私たちにとっては、前日夜遅くまで起きていて次の日学校にいけませんでした、そんなことがあってはいけません。生活習慣をがらりと変えるというのは大変でしたが、家畜と直に触れ合いながらの実習はやはり私に合っているようで毎日楽しいです。しかし、実践的な実習を行ううちに家畜の体調の変化にも気付くことができなかつたり、気付いても正しい対処ができなかつたりと、私の今の学力では家畜を扱う資格がないと思うことがあります。高校時代から大学1・2年の間にもっと勉強しておくのだったと今になって後悔しています。今から無駄にしてきた高校・大学約5年間を取り戻すというのは並大抵の努力では難しいことかもしれませんが、研究室の先輩、同期と叱咤激励しながら頑張っていきたいです。最近、猫を飼い始めたのでその子にも助けてもらいながら残りの短い大学生活を充実させようと思っています。



## 農業経営経済学講座



## 「大学生活を振り返って」

農業市場学研究室

学部4年 沖村 耕造

大学生活の中で最も打ち込んだことはアルバイトだ。1年の春休みから始めたカフェでのアルバイトも既に2年半以上続けている。入ったところはアルバイト自体も初めてで、先輩に教えてもらう事ばかりだったが気づくとアルバイトの中では最古参となり、教える側に立っていた。そんなアルバイト生活の中で、特に力を入れて取り組んだことは自分のファンを作ることだ。勤務先はお客さんとのコミュニケーションを大事にするところだったため、常連客がたくさんいた。そのなかには、この店員さんが働いているから来店するというお客さんもかなりいた。そんなお店の雰囲気もあり、働き始めてすぐにいつか私が働いていることが来店理由になる、つまり私のファンを作りたいと目標を立てて、仕事に打ち込んだ。

しかし、目標を立てたままでは良かったものの働き始めたところは仕事を覚えることで精一杯だった。30種以上あるドリンクのレシピに加え、20種以上あるフードのレシピを覚え、さらに、締め作業なども覚えなければならずようやく慣れてきたころには、1年が経とうとしていた。その頃、ちょうど店長と2人でゆっくり話す機会があった。そこで、仕事に関する様々な話を通して、私は仕事を覚える事に一生懸命で、全然お客さんや周りの同僚に気をつかえていなかったことに気付いた。そして、もう一度最初に立てた目標を思い出した。

その日を境に、私は周りのことをよく考えて仕事をするようになった。目の前にいるお客さんは何をされたら満足してくれるのかを考えるようになった。締めの作業も常に次の人が使いやすいよう心がけた。正直、仕事の量は増えたがその分やりがいもあった。そして、その結果は目に見えて現れるようになった。アルバイトを始めて1年半ほどが経った頃、初めて私のファンが出来たのだ。仕事帰りのお客さんが多い時間帯に入ることが多かったため、よく来る方にはドリンクを渡す時に一言「お疲れ様です」声をかけるようにした結果だった。

そのことをきっかけに仕事が更に楽しくなり、コーヒーが好きだったことも相まってアルバイトを辞められなくなってしまった。いつの間にか大学生活の大部分がアルバイトになっていた（当然、講義や実習はきちんとこな

した）。

## 生物資源化学科

## 生命機能化学講座



## 「大学での四年間」

生分子機能学研究室

学部4年 田村 諒介

鹿児島大学で過ごした4年間、人生が大きく変わったかと言われればそうでもないかもしれない。この文を書くにあたって、高校時代から何か成長したかなと思い巡らしてはみるがあまり出てこない。でもこの4年間、たくさんの出会いがあった。山口から鹿児島に来て、最初は知り合いの人はおらずうまくいか不安いっぱいだった。そこで印象に残っていることが「赤の人」である。入学式前後に学校に行くと必ずいる。初めは怪しい宗教的な団体の人かと思った。実はそうではなく、新入生のお世話をしてくれる生協職員の方だった。

余談はそこまでとして、そうして始まった大学生活、大学の講義、サークル、アルバイト初めてのことがたくさんあり、たくさんの出会いがあった。サークルでは「森人くらぶ」で活動していた。主に自然活動や地域活動をしており、入学当初は全く興味のない分野であり私もすぐ辞めようと思っていたが最後まで精力的に活動した。それは自然活動、地域活動に様々な魅力があったからだだと思う。ただキャンプをするだけでもネイチャーゲームやナイトハイクなどそこでしか感じられない自然体験をすることで自分が知っているものでなく、本物のキャンプとなるのであった。そして学祭では地域の食材で作った料理の販売、地域の伝統的な踊りであり棒踊りの披露を行った。最初は軽い気持ちで考えていたけど、いつのまにかどうやったら地域が盛り上がり、喜んでもらえて、知ってもらえるか真剣に考えている自分がいた。大学生活は一歩足を踏み入れたら、様々な世界が広がっていてたくさんの経験をできる場所だった。卒業出来たら、次は晴れて新社会人だ。どんな出会いが待ち望んでいるか楽しみである。最後になるが大学、両親、友達、研究室の仲間、先生に感謝の念を忘れずに生活していきたい。

## 食品機能化学講座



### 「アルバイトから得たこと」

食品化学研究室  
学部4年 山田 大喜

火山灰の鬱陶しさから、もう少し桜島はどうにかならないのかなと思いつけて、既に3年半。あっという間の大学生活でした。入学後すぐに、何か大学生らしいことをしたいと思い始めたアルバイトでしたが、ただ単にお金を稼ぐという行為ではなく、仕事に対する姿勢やお客様に対する心構えを学ぶことが出来た貴重な経験となりました。

接客がしたいと思い、焼き肉店で始めたアルバイトでしたが、最初は覚えることが多く、暗記するように仕事をしていました。しかし、箸や飲み物の置き方、扉の開け方といった細やかなこと全てがお客様への思いやりから始まっていることを知り、それ以降は全ての動作にどのような意味があるのかを考えながら仕事をするようになりました。何が目的で、どのような意図があり、その工程があるのか、を考えることは研究室での研究活動やこれからの社会人生活において、ますます重要になってくると考えているため、この姿勢を磨いていきたいと思っています。

また、仕事に慣れ始めたころ、気の緩みからか失敗をしました。その時、店長から「その失敗をお前だけの失敗にするな。」と言われたことが、一番印象に残っています。原因を考え、自分が同じ失敗を繰り返さないのはもちろんですが、周りと共にすることでその失敗から得られることを最大化するということでした。失敗に対して自分一人で向き合って自己完結するだけでは、「成功の基となる失敗」にはならないと学べたと思います。

この3年半でアルバイト以外にも、初めての一人暮らし、海外研修、就活など様々な経験をし、また同時に失敗もしてきました。しかし、そのたびに、周りと共に協力することで、より大きく成長し、充実した大学生活を送れたと思います。協力してくださった先生、両親、友達に感謝し、残りの大学生活をより良いものとしていきたいと思っています。

## 食糧生産化学講座



### 「きっかけと変化」

植物栄養・肥料研究室  
学部4年 中島 晶乃

私は、大学入学時点で全く農業に興味がありませんでした。田舎で生まれ育ったので身近な存在ではありましたが、学びたい対象になったことはありませんでした。しかし、今は学科の中では最も農業に近い研究室に所属しています。あっという間だった4年間で、そのきっかけになったのは大学1年次に参加した国際協力農業体験講座でした。

講座のメインはミャンマーでの農業を通した国際協力活動でしたが、その事前研修で霧島の農家さんのお手伝いをさせていただきました。一泊二日で、野菜の収穫や栽培に必要な道具の製作などを行いました。身近で農家さんの仕事を見て、体験したのは初めての経験でした。自然を相手にしているため、思い通りにならないことが多いが、日々作物の生長を実感することができ、シンプルでわかりやすい仕事だと感じました。体験する中で農業に魅力を感じ、もっと農業の分野を学びたい、この分野で仕事に就きたいと思うようになりました。

そして、大学3年次の学科内でのコース選択、さらにその後の研究室選択では、より農業に関することを学べる場所を選択していきました。入学当初には全く興味がなかった分野の研究室に進み、研究をしていく中で、このように進むきっかけになった農業体験講座のことをよく思い出しています。なんとなく海外に行きたいから、なんとなく友人が行くから、という理由だけで参加した講座での経験が、自分の卒業研究や就職に影響を与えるとは全く考えていませんでした。あまり深い理由や意志がなくても、とにかく何か行動を起こしてみること、新しい場所へ飛び込んでみることの重要性を学びました。卒業し、社会人になってからも、新しいことへ取り組み続けることを大切にしたいです。

## 焼酎学講座

## 「焼酎学講座での2年間」



醸造微生物学研究室

学部4年 中村 恵理

私が3年生のときのコース選択で焼酎学講座に行くことを決めたのは、発酵食品に興味があったことと、お酒が好きだったというほんやりとした理由でした。なんとなく決めた進路でしたが、この2年間焼酎学コースで学んできた時間は非常に有意義なものでした。自分で焼酎を製造する学生実験や、利き酒の授業、酒造メーカーでの焼酎製造を体験する実習など、このコースでなければできない経験をたくさんさせていただきました。また、研究室メンバーでの飲み会や、行事等の企画も多く、和気あいあいとした雰囲気の中で楽しく過ごしています。

特に、私の中で印象的だったのは、2泊3日の薩摩酒造での実習です。学生実験で自分の焼酎を作った時の何倍ものスケールで、実際の焼酎製造の場を体験できたことは非常に貴重でした。現場での焼酎の製造は力仕事が多く、大変きつかったのですが、どのように焼酎が製造されているのか身をもって知ることができました。夜はお酒を飲みながら、酒造で働いている方々のお話を伺ったり、一緒に実習にきた友人と談笑したり楽しく過ごしました。

3年生の後期からは研究室に配属となり、自分の研究テーマの実験に励んでいます。焼酎麹菌の研究を行っているのですが、うまくいったり、いかなかったり、実験の面白さや難しさを実感しています。より専門的な知識や実験の技術が求められるため、苦労することもたくさんありますが、そのたびに研究室の先生、先輩、仲間にも助けてもらい、充実した研究室ライフをおくっています。このような恵まれた環境で実験を続けたいと思い、4月からは大学院に進学することを決めました。これからの2年間でより充実した生活が送れるよう頑張っていきたいと思っています。

## 生物環境学科

## 森林科学講座

## 「4年間で振り返って」



森林保護学研究室

学部4年 早瀬 愛奈

私の大学4年間は、もう少し色々な経験をしてあげればよかったなと思うことはありますが、今までで一番充実した時期だったように思います。

1・2年生の時は、正直に言って勉強よりもアルバイトの方に力をいれていました。アルバイトでは、社会人になる上で必要なマナーや仕事に対する責任を学ぶことができました。最初はマニュアル通りにしか対応できませんでしたが、どのように動いたら効率が良いか、少ない言葉でいかに分かりやすく説明できるかなど、自分で考えて行動できるようになりました。また、アルバイトをしていて一番良かったと思うことは、他学部生や他大学のひとと知り合いになれることでした。特に、それまで交流する機会が無かった他大学の学生との交流は、とても有意義でした。

そして、森林科学コースに配属されてからは、集中講義などで実習が始まりました。実習は、大変なことが多々ありましたが、コースのメンバーに恵まれたおかげで学びながら楽しく終えることができました。また、選択実習では岩手県や屋久島にも行きました。同じ日本でも、少し場所が違うだけで森林の様子が全く異なっており、とても興味深く感じました。特に屋久島実習では、屋久島の植生を生で見ることができ、さらには時代背景も交えた屋久杉の歴史も知ることができて、とても面白い実習でした。この実習の影響を受けて島で働くのもいいなと思い、それを意識した就職先を選びました。

残りの学生生活は卒業論文に励むと共に、まだまだ新しいことに挑戦していきたいと思っています。また、この大学4年間は多くの人に支えられてきたと実感しています。支えてくださった方々に感謝し、今後は社会に貢献できるような人間に成長したいです。



## 環境システム学講座



### 「大学生活を振り返って」

環境情報システム学研究室

学部 4 年 財津 燎

大学生活を振り返ると、やりたいことをやってきた大学生活だったと思います。なにか特別なことをしたというわけではなく、私自身がそのとき興味を持ったことについて積極的に取り組んできました。そうやって様々なことに挑戦することによってたくさんのことを学ぶことができました。

具体的にあげるときりがありませんが、私が初めに挑戦したことはアルバイトです。アルバイトはやってみたいというより、自分がやりたいことのためにやらなければならないという感じでした。しかし、アルバイトによって学ぶことが多く、たくさんの人にも出会うことができました。それから、派遣や短期など自分が興味を持ったアルバイトにも積極的に申し込みました。そうやってアルバイトをすることにより金銭的にも余裕が出始めたので、1年生の夏には集中講義として海外研修に参加しました。国際協力の一環としてミャンマーに1週間ほど滞在し、文化・宗教・農業などを実際に感じました。ここで私は「まだ何も知らない」ということを痛感しました。この体験が私にとって、その後の大学生活においても大きなものとなり、1年生という早い時期にこういった体験をして本当に良かったと思います。

それから、2年生のときには富士山やフルマラソンに挑戦したり、2週間鹿児島県の離島で中学生に勉強を教えるアルバイトに参加し、3年生のときには、海外研修としてタイに行ったり、インターンシップで地元の農家に1週間お世話になったりとさまざまなことに挑戦し体験してきました。こうしてみると、私の大学生活はとても充実していたものだったと思います。「学生のうちにしかできないこと」というフレーズはよく聞くと聞きます。しかしこれは「学生のうちでなければ実行が困難なこと」と私はとらえています。私も、もうすぐ大学を卒業し社会人として働くこととなりますが、いつまでも挑戦し続けたいと思います。

## 生産環境工学講座



### 「大学生活を振り返って」

利水工学研究室

学部 4 年 藤平 優佑

卒業まであと半年を切った今振り返ってみると、様々な体験をした4年間でした。入学する前に想像していた大学生活以上の充実感を得ることができました。講義や卒業研究などはもちろん、アルバイトやボランティア活動などそれぞれ違った面で自分を成長させることができ、恵まれた大学生活だったと感じています。

特に3年生の時に一年間通して参加した棚田保全活動では、日本棚田百選にも選ばれている内之尾棚田の水田を2枚借り、農家の方々と一緒に草刈りや稲刈り、収穫祭をさせていただきました。大学に入学するまで農作業を経験したことがなく、初めての経験であり戸惑い分からないこともたくさんありましたが、農家の方々と一緒に参加していた友人たちと協力することでとても楽しいボランティア活動になりました。またこの経験から農業の大変さ、食のありがたみについて改めて実感することができました。毎日当たり前のように食べている農作物をより感謝して食べようと思いました。

また4年生になると就職活動や卒業研究が本格的に始動し、とてもあわただしい生活になりました。私は公務員志望であり一次試験のために研究室にこもって勉強に励みました。周りの友人も公務員志望が多く、互いに切磋琢磨しながら内定のために努力しました。そのおかげもあり良い形で就職活動を終えることができたと思います。残りの数ヶ月は卒業するためにも卒業研究にも本腰を入れて頑張っていきたいです。

大学生活を振り返って、大学4年間で学んだこと、経験したことは多くあります。もちろん反省や後悔も多くあります。しかしそれらすべてを今後の糧として、立派な社会人になっていきたいです。

## メモリー

～進路・就職に役立つ先輩の経験・体験談～

## 教育実習奮闘記



## 「教育実習を振り返って」

生物生産学科 生物生産講座  
植物育種学研究室  
学部4年 畠中 京介

私は今年の5月末から6月初めに2週間教育実習を受けるため大阪の母校に帰りました。この2週間の体験はとて目まぐるしく、濃密なものであり、教育を受ける側ではなく与える側からの視点を経験できたことは非常に貴重なものとなりました。

教育実習をするまではどのように話せば伝わりやすいか、板書はどのように書くか見やすいか、どういったことに注意しないといけないかなどといったことに意識を置き、自分なりに準備してきました。いざ実習が始まるとういうとき、担当の先生から「君たちの目標は生徒に本当の先生として見てもらうことだ」とのアドバイスを受けました。仮にも教壇に立つからには当たり前ことではないかとその時は軽い感じで受け止めていました。しかし、初めて先生に模擬授業を見ていただいたときに、「教科書を見すぎている。誰のために読んでいるかわからないし、生徒を見ていない。」との指摘を受けました。私は今まで自分が失敗しないための準備しかしていなかったことに気づかされました。あくまで生徒があつてこそ授業・教育があるのに、自分が安心して授業をするために教科書を読み上げ、生徒に伝えるという行為を全く忘れていたことにショックを受けました。そこから奮起し、急いで授業の構成を練り直し、十分に準備をした上で本番に臨みました。そのため、授業は初めに想定していたよりもずっと内容の濃いものにできたと自負しています。あるクラスでの授業後「わかりやすかった」「おもしろかった」と生徒から言われたとき、教育実習に来てよかったと確かな実感を得られたことは今後も忘れられません。この2週間は、もちろんうまくいったことだけではなく、失敗したことや後悔したこともありました。2週間の短い期間の中で現場を体験し、先生にさまざまなことを教えていただき、なにより生徒と接して自分の授業や考えが彼らに伝えられるのか実践できたことは、とてもいい経験になりました。



## 「教育実習を通して」

生物資源化学科  
焼酎製造学研究室  
学部4年 杉町 美奈

私は平成29年5月29日～6月9日までの2週間、母校で化学の教育実習を行いました。昔と変わらない風景に懐かしさを感じる反面、生徒がタブレットを持ち授業を受ける姿をみて、確実に時が経っていることを実感しました。先生と呼ばれて過ごした2週間は、毎日が刺激的であつという間でした。先生として感じた「授業の難しさ」について書きます。

緊張のあまり手で拭えないほどの汗をかき、生徒に爆笑されるという大失態から始まった最初の授業。人前に立ち、話すことがこんなにも緊張するのだと初めて感じました。授業が終わり、怒られる覚悟の私に指導教員は「初めから上手くやれる人なんていないよ。」と過去の経験談を話して下さいました。完璧に見える先生でも、授業ノートを改善し続けていることを聞き、授業ノートの大切さに気が付きました。どんなに内容を理解しているのが生徒に伝わらなければ意味がありません。生徒が悩みそうな箇所、考えさせる時間、黒板に書く位置、時間が押した時など様々なことを想定してノートに書き込み授業に臨みました。あらゆる想定をしても思い通りにいかないのが授業です。しかし、必死に授業ノートを作るようになり、想定外のことが起きても緊張せず授業ができていることに気が付きました。

場数を踏み、落ち着いて授業ができるようになると、分からないで悩んでいる生徒の顔や、理解できて満足げな顔などもみえてきます。決して上手とは言えない授業を一生懸命聞いてくれる生徒達の姿には何度も救われました。「先生の授業分かりやすい。」と言われた時は涙が出るほど嬉しく教師としての醍醐味を感じました。

実習を終えて思い出すのは楽しかったことばかりです。一度も怒ることなく私を支えてくださった指導教員、素直で優しい生徒達、練習につきあってくれた家族や友人など多くの人のおかげです。一生経験できないであろう教育実習を通じて学んだことを糧にして今後も研究や自己成長に励んでいきたいです。



## 「教育実習を終えて」

生物環境学科 環境システム学講座  
農業環境システム学研究室

学部4年 山田 あかり

5月22日から6月2日までの2週間、母校の国分高等学校で生物の教育実習を行いました。授業は実験8回と座学2回の計10回行いました。

実験は、なんとマイクロメーターの使い方。目盛の計算の仕方は習ってはいましたが、実物は見たことも使ったこともありません。自分が使ったことがないものをはたして生徒に教えられようかと、とても不安でしたが、やるからには「この授業を教育実習生に教えてもらえてよかった」と思ってもらえるような授業を行おうと全力で臨みました。

初めのうちは、まだ作業が終わっていない生徒がいる中、どこで区切って次に進めばいいのか分からず、予定していたところまで終わりませんでした。指示も後ろの席まで届いていなかったようです。その後、授業見学をさせていただくことで何となくコツをつかみ、メリハリのある授業ができるようになり、声も聞こえやすかったと言ってもらえるようになりました。回を重ねるごとに授業がよりよいものになっていく実感があり、授業をすることがだんだん楽しくなってきました。生徒にも、「分かりやすい授業だった！楽しかった！」と言ってもらえるようになり、とてもうれしかったです。

職員朝礼やホームルーム、昼休みや放課後には、「教科を教える」仕事以外の職務にも携わりました。授業を進める難しさだけでなく、様々な生徒との関わり方、多岐にわたる業務についても理解できた2週間になりました。

「決められた時間の中で学習目標を達成させるためには、どのような授業を展開すれば有効なのか」、「自分の想いや考えを正確に、多くの人に伝えるにはどうすればいいのか」と、必死に考え試行錯誤した経験、仕事の厳しさややりがいを肌で感じ取った経験は、教師という職業に就くことはなくても、きっと役立つはずだと思います。この2週間で学び、身につけたことを今後の人生で活かしていきたいです。



## インターンシップ



## 「インターンシップを終えて」

生物生産学科 園芸生産学講座  
果樹園芸学研究室

学部3年 瀬戸 大一郎

私は今回、鹿児島県庁の農政部生産園芸課でインターンシップに参加した。期間は2日間という非常に短いものであったが、そこでの体験は今でも鮮明に覚えている。生産園芸課でも、水田係、野菜係など様々な部門に分かれていた。私は希望通り、野菜係と果樹・花卉係で研修を受けることができた。各係の職員の方々から話を聞いて、特に生産だけが農業ではないということが印象に残った。職員の方からそう言われた時、私は大学に入学した当初のことを思い出した。その時、農業は多くの人々が協力することで発展する、という話を聞いたことがある。農家へ一方的に考えを押し付けるのではない。災害対策の資材や土地にあった作付体系を提供する一方で、農家の方々から意見を聞き、その効果や欠点などを把握する。その成果は鹿児島県全体の農業生産データとして現れる。野菜係の係長の方から、農業生産の統計を見せていただいた際、そのことを実感した。パソコンを使った情報処理をしていた時も、県庁の取り組みと農家のつながりが垣間見えた。例えば、花卉では、小学校の教育活動に使うフラワーアレンジメントの材料として、農政部が切り花を提供していることが分かった。自分の知らないところで、農業を通して農政部と花卉生産農家、さらには教育現場が一体となっている。そこに気付いたとき、私は農業の奥深さを感じた。

2日間のインターンシップで、生産園芸課職員の方々に



は本当に多くの質問をした。もともと消極的な私でも発言ができるように、雰囲気のを和ませてくれた職員の方々に本当に感謝している。これから研究、就職活動、私生活において、今回の研修で経験したことを忘れず活かしていきたい。



## 「インターンシップを終えて」

生物資源化学科 食品機能化学講座  
栄養生化学・飼料化学研究室  
学部3年 作田 あゆみ

私は9月11日から3日間、小正醸造株式会社研究開発課でのインターンシップに参加させていただきました。品質管理の業務を体験できること、地元鹿児島県の会社であること、そして大学に入ってから興味を持った焼酎製造会社であることなどの理由からここをインターンシップ先として選びました。

インターンシップでは、5S、ISO、排水などについて学ぶ勉強会や、庫内工程分析、甘藷デンプン価測定、もろみ分析、瓶詰前サンプル分析、利き酒による製品当てなど実際に体験させていただけるものもありました。

今回、印象に残ったことは5Sやコミュニケーションの重要性です。5Sとは、整理・整頓・清潔・清掃・躰の頭文字をとったものです。機械操作の際の手順や、器具を片付ける場所は何処なのか、初めて研究開発課にやってきた私でも理解できるようにわかりやすく明示されており、作業ミスをなくす取り組みが行われていました。同時に、5Sができているかパトロールするとともに、良いところを延ばすという取り組みも行われていました。その結果、各部署でコミュニケーションが円滑にとれるようになり、作業効率の向上や、社員意識の向上に繋がったりするということを学ぶことができました。

また、品質管理作業などの体験を通して、作業を丁寧に行い、記録を残しておくことの大切さを実感することができました。私がこれから卒論研究の実験を行う際には、このようなことに気をつけ、5Sやコミュニケーションをとることも実行し、丁寧に作業効率の良い実験を行うことを心掛けたいと思いました。そして、これからの大学生活や就職活動に今回のインターンシップで学べたことを生かしていきたいと思いました。

最後になりますが、お忙しい中ご指導をしてくださった小正醸造株式会社の皆様、本当にありがとうございました。



## 「学外研修を通して、将来の目標を明確に！」

生物環境学科 生産環境工学講座  
利水工学研究室  
学部3年 石本 華子

私は、今年の8月21日から25日の5日間、熊本県庁で学外研修（インターンシップ）を実施してきました。将来は公務員を希望しており、昨年、熊本県庁で行われた就職説明会にも参加させていただきました。そのときは就職に関する知識が何もなく、ただ試験を目前に控えるひとつ上の先輩方のピリピリとした緊張感がとても伝わってきたのを覚えています。今回はそのとき学んだ農業土木の概要をもっと深くまで学びたいと思い参加しました。今大学では農業土木を専門に学んでおり、県庁では農林水産部に配属されました。

熊本は震災があり、復旧作業が主となっています。実際に被害にあった大切畑ダムを見てきました。ここは震災により断層が見つかったため、再びダムとして使えるように断層とは反対方向の山を切り開いたり、農地を買い取ったりしています。他の場所では災害復旧だけでなく中間山地の総合整備事業なども行っています。農家の方から整備の要望があった場合、直接その地域の方と話し合いをしながら、事業を進めていきます。完成したときは農家の方から感謝されることが多いそうです。事業を終えた今でも農家の方と仲が良く、お話もするそうです。また自分が苦勞して設計したものほど、何十年経った今でも記憶に残っており、再びそこへ行ったとき、きちんと水が流れているのを見るととても嬉しいと事業を担当した経験のある方がおっしゃっていました。このように農家の方と協力してしながら事業を進めていき、ともに喜びあえるのは農業土木の良さだと感じました。

今回の学外研修は他にも様々な体験ができ、とても有意義に過ごせました。大学で学んだ水利権や農地の換地など、熊本県庁の方だけでなくJICAで来られていたミャンマーの方との交流でも活かすことができました。そして何より将来の目標を明確にすることができました。これからの就職活動に活かしていこうと思います。

## 介護体験記



### 「介護実習を終えて」

生物環境学科 環境システム学講座  
食料環境システム学研究室  
学部4年 井口 智貴

今回私は鹿児島盲学校で2日間、コンフォート上荒田にて5日間の介護体験をさせていただきました。

鹿児島盲学校では、施設参観・授業参観・点字体験・歩行体験などを行い、最終日に実習生同士で意見交換をしました。この実習で特に印象に残ったのは歩行体験でした。この体験は目隠しをして校舎内を歩き回るというものでしたが、実際に歩いてみると想像以上に何も見えないことの不安でいっぱいでした。手に触れるものは把握しながら歩けましたが、足元の障害物などには全く気付けず、視界が全くない環境下で生活することはとても不安で怖いことだと体感しました。また、階段にも手すりや補助が必要と感じ、日常生活の中でも目の不自由な方を見かけたら安全に歩行できるよう手を差し伸べるべきだと改めて感じました。

コンフォート上荒田は身体の不自由な高齢者が少しでも生活しやすくできるよう支援する施設でした。マシンを使って身体を動かす補助や、入浴の手伝い、昼食の配膳などを体験しました。高齢者とのコミュニケーションがうまくとれるか心配でしたが、高齢者の方々は積極的に話しかけてくださったり、自ら進んで身体を動かしたりしておられとても活気があり、楽しく補助を行うことができました。補助するたびに丁寧にお礼を言うってもらうことも多く、私自身充実した時間を過ごさせていただきました。

私はこの2つの体験を通して、身体が不自由な方が普通の生活をするためには、周囲の理解とサポートが必要不可欠だということがわかりました。今現在の若者は障害者や身体の不自由な方に対する知識が乏しく、また知る機会にも恵まれていない人が多いと思うので、体験をした私たちが周囲に知らせていくことが大事だと思います。

私は今回介護実習をさせていただいて、とても貴重な体験ができました。障害者や身体の不自由な方に寄り添うことで福祉の大切さを実感できました。このような機会をいただけて良かったです。

## 留学報告



### 「行ってみないと 感じられない」

大学院 生物生産学専攻  
熱帯作物学研究室  
修士2年 山邊 菜穂子

ずっと憧れていた留学を実際に自分で成し遂げたこの経験は、私にとってとても大きなものになった。インドネシアのボゴール農科大学で洪水などの水被害に強い稲の研究を行うために官民協働留学支援制度「トビタテ留学Japan!」に応募し、採用してもらい、約半年間留学した。ボゴール大学では、冠水状態で稲を生育させ、処理期間や品種によってどのような差が出るのかを調査した。実験はとてもハードで、忙しい時には寮に帰れないときもあったが、大学の友人に頼んでサポートしてもらいながら、無事全てのことを成し遂げることができた。

留学中は毎日が刺激的だったが、その中でも特に印象に残っているのは宗教に関することであった。私が留学していたインドネシアは全人口のうち75%がイスラム教徒であり、ボゴールがあるジャワ島においては90%以上がイスラム教徒であった。イスラム教では豚とアルコールを口にすることが禁じられており、一日5回お祈りをしなければならない。私はそんな縛られた生活はできない・したくない、自分でどの宗教がいいか考えなおせばいいのに、とも思っていた。しかし留学中、宗教に関する様々な疑問をぶつけてみたことで彼らは決して縛られているわけではないのだということを知った。一日5回もお祈りをするのは面倒ではないのか聞いてみると、この時間がないと落ち着かないのだと言っていた。クリスチャンのクリスマスパーティーに参加した時もこの日だけは泣いていいのだと言ってみんな人目を気にせず泣いていた。私はなにも縛りが無い日本の生活が一番だと思っていたが、日本には落ち着けるような、人目を気にせず泣けるような日がないのだということに気が付いた。それからは友人のお祈りの時間を私も大切にしていこうと思ったし、宗教を軽視しないよう気を付けるようになった。研究だけでなく、文化・宗教においても自分の視野を広げることができた素晴らしい経験をできたと思う。



## 「留学を通しての学び」

大学院 生物資源化学専攻  
土壌科学研究室  
修士2年 松野 美里

本学では初めてとなるスロバキア農業大学への留学は、私にとって素晴らしい経験になりました。

留学を決めたきっかけは大学の海外研修プログラムで中国を訪問したことでした。以前から海外に行くことはありましたが、現地の大学で学び、現地の大学生と密に交流する機会はこの時が初めてでした。異なる環境のなかで多くの発見があり、有意義な時間を過ごしました。帰国後、今度はより長期間でより専門的なことを学びたいと思い、交換留学を決意しました。

本学の交換留学先の中でも、様々な国から学生が集まるヨーロッパで農学を英語で学べる場所がスロバキア農業大学でした。留学中は専門分野を中心に6つの授業を受講し、空きコマには研究室で研究アシスタントをしていました。授業が始まった当初は、英語の専門用語が飛び交う中、現地の学生や留学生が積極的に発言をしたり、質問に素早く答えたりする姿を目の当たりにし、自分はただ教室に存在しているだけかのような気分でした。悔しさと焦りを感じ、レコーダーで授業を録音して、寮に帰って復習し、友人たちのサポートのおかげでなんとか単位を取得することができました。

学習面以外に多くのことを学んだのは、寮生活です。一つの空間をシェアするルームメイト、階ごとにシェアするキッチン。寮にいれば毎日必ず誰かと顔を合わせる。異文化を肌で感じたいと思っていた私にとって、国際色豊かなこの寮は大正解でした。料理中に誰か来れば互いの料理を味見しあったり、つい話し込んで一緒に食べたり、楽しい留学生活が送れたのはここで出会った友人たちのお陰です。異なる文化的背景を持った人が集まるこ

の寮生活で、互いに異文化を尊重し合う協調性がとても身についたと思います。留学を終えた今、この6ヶ月は今までの人生で一番濃く、刺激的な期間だったと感じます。この留学を通して得た語学力や、積極性と協調性を無駄にせず将来に活かしていきたいです。





## 編 集 後 記

今2年生の学生実験を担当しているのですが、学生の皆さんは時間があればスマホをとり出して、ネットを見たり、ラインをしたり、本当にスマホは必需品であり手放せないんだなと感じます。化学実験で加熱したり、反応させたり待ち時間が多い実験ですので、そういう時間にスマホをいじること自体は、私は特に問題だとは思いません。

私が学生の頃（何十年も前ですが）、もちろんスマホありませんし、iPodもウォークマンありませんから、学生実験の待ち時間には漫画を持ち込んで読んだり（先生に怒られました）していましたが、やはり友達と話をしていた時間が長かったように思います。もちろん内容はどうでもいいような、遊びやサークルや食べ物や異性などの話題です。しかしそのような会話（おしゃべり）をつうじて、とくに接点がなかったクラスメイトとも親しくなれたような気がします。また他人とのコミュニケーション能力を養うのにも、役立っていたのではないのでしょうか。クラスメイトとのどうでもいいような内容のおしゃべり（雑談）を、積極的にしてみたら面白いかもしれませんよ。

（文責 食料生命科学科 樗木直也）

### 鹿 児 島 大 学 農 学 部 あ ら た 同 窓 会

〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21-24

TEL・FAX 099(285)8537

e-mail(arataakai@mc2.seikyo.ne.jp)

振替口座 02010-2-876

事務局の業務日 月・水・金(10:00~16:00)

|        |                           |
|--------|---------------------------|
| 印刷所    | 株式会社鹿児島新生社印刷              |
| 住所     | 鹿児島市七ツ島1-1-1              |
| TEL    | 099-261-0111              |
| FAX    | 099-261-3100              |
| E-mail | kagoshima@shinsei-p.co.jp |



測量実習



化学実験



毛刈剪定